

11月14日 (若狭) 駒ヶ岳

平尾 繁和

山名	(若狭) 駒ヶ岳 (780m)	山行名	例会
ルート	木地山～南尾根分岐～駒ヶ池～南尾根分岐～駒ヶ越～山頂～中小屋への分岐～木地山		
山行日	2021年11月14日(日)	天候	曇りのち晴れ
参加者	CL 平尾、SL 伊藤多、幾田、今村、上杉、上田、川上、蒲田、倉光、佐々木、玉置、 富田、永井、西川洋、牧之瀬 / 15名		

ルート概略図



コースタイム

地名		時：分	地名		時：分
京田辺			南尾根出合	着	11:52
	発	6:15		発	11:52
木地山バス停	着	8:35	駒ヶ岳	着	12:25
	発	8:55		発	12:45
カツラの巨木	着	9:47	中小屋への分岐	着	13:00
	発	9:53		発	13:00
南尾根出合	着	10:50	木地山バス停	着	14:10
	発	10:51		発	14:25
駒ヶ池	着	10:55	くつき新本陣	着	14:35
	発	11:40			

車3台で湖西道の道の駅妹子の里でトイレ休憩後、安曇川から県道23号を朽木麻生へ向かう。トイレのある木地山集会所前の空き地に駐車。数台はとまれるスペースがある。高島トレイルで知られてきたのか下見時には富士山・和歌山・和泉・なにわナンバーの車が止まっていた。麻生川を渡り山道に入る。麻生川の支流にはろくろ橋？と呼ばれる丸太の橋がかかっているが傾き苔が生えひと目見て渡れそうもないので、その先の滝の手前を渡渉する。短い距離ながら石が滑りやすく一苦労。焼尾谷沿いにすすみ、数回渡渉する。安全第一に水深は浅いので靴が濡れるのを覚悟で替え靴下の持参をお願いした。若干、滑りながらも無事通過。熊ヶ畑なるバス停もあるほど野生動物の領域でもありクマ鈴を前後でつけていく。焼尾東谷に入り、カツラの巨木の所で休憩。その先の出会いを右の谷へすすむ。山腹の狭い踏み跡を落ちないように慎重にすすみ、さらに出合を右へろくろ橋と駒ヶ岳の中間点を示したわかりづらい道標を左に見て沢をさらに詰めていく。前方にカツラの巨木が見えたら右の尾根にとりつく。このあたりからブナが姿を見せ始める。尾根筋の太いブナの間の急な登りの先に南尾根の稜線がみえ、分岐につく。一旦南へブナ林の間から駒ヶ池をめざす。広々としたブナの林の中の湿地のような駒ヶ池につき、少し早い昼食休憩。十数年前には水がたたえられていたそうだが今は水もない。ここで初めて高島トレイルの南尾根を登ってきた人たちと出会う。聞くと横谷から登ってきたとのこと、YAMAP にでている尾根筋のルートのようなようだ。小さなリンゴのような実が落ちていた。バラ科のズミ(別名コリンゴ、コナシともいう)の実だと思い齧ってみたら苦みの中にもほのかに甘酸っぱさがあった。周りにはブナの実や殻斗が落ちていた。分岐へ戻り広い巾の南尾根を駒ヶ越から駒ヶ岳山頂へ向かう。山頂には先程の登山者が休んでいた。向かいに琵琶湖をはさみ伊吹山から霊仙、鈴鹿の山並みが見えた。集合写真を撮り下山路へ。右手に小浜の集落や日本海が薄曇りのなかくっきり見えた。中小屋への分岐からは一路下りに入った。ブナ林ではハウチワカエデやコシアブラなどの紅黄葉がブナの灰色の幹の間に見え美しかった。時々写真タイムをとり、分岐を渡渉して焼尾谷へ戻った。ろくろ橋手前の最後の渡渉で、石で滑り若干名膝下を濡らされたが無事下山できた。道の駅くつき新本陣で解散、トチ餅など土産を買って国道367号を大原回りで帰途についた。ブナの落葉後ではあったが、天気にも恵まれ高島トレイルの一部、朽木の静かな山で紅黄葉の見頃を楽しむことができた。分県登山ガイド「滋賀県の山」の技術度3/5は、読図力のいる山だった。

標高差 478m、YAMAP : 7.4 km、5時間 23分、累積標高差 623m/624m

ヒヤリハット なし



駒ヶ池



駒ヶ岳山頂



大カツラの前



焼尾東谷を行く



駒ヶ池で一休み



南尾根



ハウチワカエデの紅葉





小浜方面 日本海を見る



感 想

富田 文雄

登山教室計画以外の若狭駒ヶ岳例会に初めて参加しました。木地山登山口から沢に沿って登る中、川のせせらぎを聞きながら、紅葉を見ながらに癒やされました。南尾根を經由して、日本最西端の駒ヶ岳と落葉後のブナの森の回廊を堪能できました。今度は新緑の時期に再度、行きたいです。

蒲田 史

紅葉がとてもきれいで、落ち葉のいっぱいのブナ林が素晴らしかったです。頂上近くでは琵琶湖と日本海が一度に見えるのも感動しました。遠いところまでありがとうございました。

今村ひとみ

「高島トレイル」なんて名称があるんだなあと、どんな山々か楽しみにして参加しました。まず、琵琶湖の水源となる沢がありました。私が沢を徒渉する時に石の上でつるつる滑るのが怖くて立ち尽くしていると、私の手を取り助けに来てくれたその勇敢な方々…。いつものおじ様も、その日ばかりは王子様に見えました(笑)。美しい紅葉を所々に見ながらブナ林を通り抜け稜線歩きを楽しみ、若狭駒ヶ岳山頂では琵琶湖と伊吹山、そして反対側には日本海若狭湾が見え、その時自分が立っていた場所が「中央分水嶺」と言われる意味がわかり感動しました。お世話してくださった皆様、ありがとうございました。

永井 繁一

徒渉を繰り返して沢沿いを登り始める。途中から傾斜が始まり駒ヶ池への尾根を目指す。登るごとに赤・黄緑・黄色・オレンジなどの紅葉？黄葉？が迎えてくれる。周囲の緑の中で存在を示すかのように1本、2本・・・と現れる。この風景は一面が紅葉とは違った趣を感じる。また、駒ヶ池近くまで進むと、葉を落とし始めたブナ林に太陽が差し込み、樹間からは奥に広がる黄葉の風景が見られた。これは感動ものである。ちょうど1年前の岩籠山山行、ブナ林を思い出す。目指した駒ヶ池で昼食。集水できそうにない地形なのに何故水が溜まるのか？不思議な池です。駒ヶ岳～分岐の稜線を歩くと滋賀側斜面に、紅葉が多いように感じる。「南向き斜面なので日光が良く当たっているから」とUさんに教えて頂き納得。尾根斜面はその向きにより、季節の移り変わりのスピードが違う事を実感する。

CL・SLさん、長時間運転して頂いた車出し運転手の皆さん、大変お世話になりました。ご参加の皆さんありがとうございました。

上杉 郁子

3～4回の浅い渡渉を繰り返すと登山道に出た。先頭に行くSLが脚の遅い老体を気遣ってゆっくりとした歩調に感謝する。どこをみても紅葉。秋一色の世界に身をおける幸せを感じた。CL、SL他の皆さん有り難うございました。

佐々木康治

「若狭駒ってどこ？」・・・ガイド・ブックで調べても見つからず、地図上にもなくミステリー山行になりそう。11月7日（日）に一人で愛宕山ペース登山に挑戦、たまたま山頂で手渡された「高島トレイル」のパンフに駒ヶ岳の名を目にした時は大発見をした気分、目指す山は福井と滋賀との県境にあった。まだ真っ暗な午前4時半に起床、心を浮き立たせる登山日和、松井山手ガストに「山が命」の男5、女10の15人が集結。今日も女性上位、最近の山友会は女性パワーが全開。渋滞もなく車はスイスイと山深い朽木村奥の山麓へ。渡渉が5、6回、早速川にはまりキャーキャーと嬌声があがる。一步踏みはずすと溪谷に転がり落ちる急斜面をジグザグに上へ上へ。紅葉が見事、明るいブナ林も最高。静寂の駒ヶ池、ここはサブ伊藤さんにとってかけがえのない聖地。ブナ林と池を愛でながらのランチがおいしい。池から駒ヶ岳山頂、そして下山の山道は歩きやすく散歩気分、紅葉、黄葉に魅せられながら足取りも軽い。最後の渡渉で再度ドブんと水没したメンバーが笑いの絶えない一日を締めくくってくれる。訪れることが難しい奥山を楽しむ機会を与えてくださった平尾さん、伊藤さん、ドライバーの西川さん、幾田さん、平尾さん、ありがとうございました。

倉光 展子

好天に恵まれた秋の一日、穏やかないい山行ができた。期待していたブナ林の黄葉の世界はとっくに終わっていたが、フカフカの枯葉となって、歩く私たちの靴底を優しく慰めてくれた。見回すと、あちこち紅葉、黄葉が最後とばかり色鮮やかに、私たちの目を楽しませてくれた。特に帰途の下山、前方に斜陽を浴びた紅葉の木々がまるで舞台の背景のようで、一瞬、異次元に飛び込んだような錯覚に陥った。いいところを案内して下さったリーダー、サブリーダー、長い距離、車を運転して連れて行って下さった3人の方々、お疲れになられたことでしょう。ありがとうございました。

伊藤多恵子

2007年に、ある会に案内されて行ったブナ林の尾根と静かな林の中の池にすっかり魅了され、翌年再び友人と二人で訪れた。この年、幸い高島市の観光課が臨時バスを出していただいていたので何とか個人で行くことができたのだ。沢を渡渉したことや、尾根に取り付く急な斜面のことなどはあまり覚えておらず、ただ水面に樹影を映し込んだ神秘的な池のほとりで長い時間を過ごしたこと、落ち葉を踏みしめながら歩いた広々とした尾根の記憶だけが鮮明に残っていた。私はこの尾根をブナのプロムナードと名付けていた。13年後に訪れてみると、池は沼と化し、尾根のブナも何本かは横倒しになって無残な姿を見せていた。それでも、池の周囲の静かな雰囲気やブナの巨樹の続く尾根道は相変わらず私を惹きつけた。ブナの木は既に多くの黄葉を落としていたが、山肌に残るカエデ類が秋の日差しを受けて真っ赤に輝いていた。もう一度行きたいと願いながら、公共機関でのアクセスが難しく諦めていました。この山に行く機会を与えてくれてありがとうございました。